

# とよおかコンサート



7月8日 ゆめあるて



第690号  
 発行人 ● 豊丘村公民館 館長 原 国人  
 編集人 ● 長野県下伊那郡 豊丘村公民館報 編集委員会  
 0265-35-9066  
 印刷所 ● 龍共印刷株式会社

私たちの村  
 (8月1日現在 ※外国人を含む)  
 男 3,364人  
 女 3,386人  
 総人口 6,750人  
 世帯数 2,149戸

## とよおかに在住 ソプラノ歌手熱唱

豊丘村にオペラ歌手が会場に来た！「ぜひ豊丘でコンサートを」とお願いすると快く承知してくださった。超一流の経歴をお持ちの「あきちゃん」「しゅん君」「きくちゃん」は、歌とおしゃべりと演奏で会場の誰をも魅了した。歌に合わせた映像もその曲に自然と引き込まれていき、まさに目と耳で楽しむコンサートとなった。

### 会場に響く 豊かな歌声

公民館社会部  
片桐達司

七月八日、良く晴れた午後、ゆめあるてには二五〇人は越えるだろう超満員といえる聴衆で熱気が渦巻いていた。午後二時、ある種の緊張感とざわめき感がうごめく会場を一気に静寂感に変える歌声でコンサートが始まった。現役のソプラノ・バリ

トンオペラ歌手の歌声は会場に集まった人々の心を一瞬にして奪い、そこはあらかも都会のホールを感じさせる雰囲気ゆめあるては変わっていった。演奏プログラムは、初めてオペラ歌手の声を聴く方にとっても聴いた経験のある方にとっても、心地よく感じられたのではないだろうか。テレビコマーションで流れていた曲、子どもの教科書に載っている曲など、どこかで聴いたことがある曲を元にしたイタリア、ドイツの作品からアメリカのミュージカル、そして日本の童謡まで多彩なものだった。大人はもちろん、聴いていた小学生も食い入るように出演者の姿、声にはまり込んでいった。

出演されたソプラノの小石峯暁子氏は縁あって豊丘在住となり、豊丘に豊かな文化を運んでくれた。豊丘ではなかなか聴くことができないオペラの演目をこたえられた原語で、また日本語で奏でてくれた。相棒として来訪されたバリトンの田中俊太郎氏もオペラの魅力を十分に演出して下さった。そして、ピアノの菊池智恵子氏もステージに花を添えて下さった。

演奏会が終わって会場を出る方々の顔つきはさすがにうれしい笑顔であふれていた。こうした演奏会を今後も気軽に参加できるように機会が増えることに期待したい。また、豊丘の未来を切り開く子どもたちにもっとふられるような企画も考えていきたいものだ。

この公民館報『とよおか』は毎月、村内の各家庭に無料で配られる。読者はタダで読むことを当然と思うかもしれないが、発行するためにはお金がかかっている▼発行にかかる毎月の費用はいくらか。編集委員の日当は、月2回の編集会議にのべ12人が出席するとして約3万円。印刷会社に約11万円。この合計額を発行部数で割ると、一部あたり約60円となる▼あなたももし館報が有料だったら、お金を払ってでも読みたいだろうか。払うとすればいくらが適当か。このコスト意識は編集委員として意識するべきと自戒する。ただし、公民館の役割は「住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化」(社会教育法20条)であり、何でもお金で計算することは公民館の設置目的にそぐわない▼今年3月の議会で下平村長は館報のあり方について「公民館にはいろいろな意見がたくさんの方角から寄せられるべきであり、それが最も望ましい形であることは間違いない」と述べた。言論の自由が保障された空間が館報であり、そのために村が予算をつけ、無償で配布する。自治体の使命の具現である▼館報に掲載するためにいろいろな方に原稿を依頼しているが、原稿料は0円である。この条件は編集委員も同じ。そのかわり寄稿者の発言の自由は編集委員が全力で守る。

「自立と自律」の視点から見る通学合宿  
 社会教育委員長 貝原 豪

通学合宿が六年間継続され、豊丘村の小学校四年生から中学三年生の全員がこの合宿を経験したことになることは、教育委員会と慈恵園の協力で感謝しなければなりません。全国的に極めて稀なこの合宿の意義とは何か？

中学卒業までに身につけるべき力は「自立心」と「自己コントロール力(自律心)」です。自分で考え判断して行動し失敗しても人のせいにはしない(自立)、周りの状況を見て我慢すべきは我慢できやるべきことは失敗しても頑張る(自律)……これが『自立と自律』です。この難しい行為をなす判断基準が「規範意識」で、善悪の判断や道徳心と

いう驛のことで。子ども達は何回も我が儘を繰り返して、失敗し生き方の練習をしなくてはなりません。実はこの練習場が通学合宿なのです。親元を離れての共同生活は子どもの心を逞しく成長させる大冒険です。好きな友との仲良しお泊まりではない、真剣勝負のお泊まりなのです。まさに送り出し、家に迎え入れる、親の自立と自律

## 子どもの心を 成長させる大冒険

が問われることになるのです。なぜなら子どもは親の元で自立と自律を練習し学んでいくからです。四年生の皆さん未来に向かって羽ばたきましょう！

合宿初日、読み聞かせで心をリラックス

段丘

(壬生雅穂)

# 無益な戦争の生きた証人

日下部 富次

私は堀越で生まれ育ち、小学校三年まで分校で学び、四年から本校（現、北小学校）に通いました。通学路は主道である黒谷線と浅間通りと大林線でした。その大林線の道路の脇に松脂を採っている松の木が林立していました。

更に、枯れた松の木の根元を父と二人で掘り、荷車でホツキの天竜河原まで運びました。ここに松脂から松根油を精製する工場があったものと思います。

第二次大戦中、国際連盟を中心とする日本への経済制裁によって、諸物資、特に石油類が不足する中で、軍用機の燃料にするため、苦肉の策として松根油精製が行われたのです。しかし精製は失敗し、エンジンの故障等で、この事業は消滅したそうです。

戦後すっかり忘れ去られていた松脂採取木が大乗坊付近にあることを、長沢の宮外昭弘氏から教わり、昨年二人で確認してきました。それがこの写真です。

豊丘村で確認できた唯一の貴重な松脂採取木です。

その後、この採取木が、飯田市上郷の野底山に七十五本発見されたことを知り、宮外氏と二人で見に行き、六十本余確認できました。

写真のような松脂採取木は、あの



忌まわしい戦争の生きた証人として存在しているのだと思います。無益有害な戦争を二度と起こさないため、この生きた証人を村の宝として保護し、村民の皆様はその姿を公開していただけることを切望してやみません。

## シリーズ「元氣な高齢者」④ 不屈な精神で乗り切った波乱万々な人生

宮外みつゑさん  
九十一歳  
長沢在住



七人姉妹の三女として昭和二年に生田で生まれた。女ばかりのため、両親は少し残念な気持ちがあったようだが、大変可愛がって

れ皆が仲良く伸び伸びと育った。父親は男一点のため窮屈さを感じていたようだ。小学校まで四十分ほど歩いて通ったお陰で足が鍛えられ駆けっこは得意で、三十人ほどいた同級生の中でお転婆的な存在であった。そんな状況で田畑の世話、草掻きなど進んで家の手伝いを行い、親の喜ぶ顔が子供心にも嬉しかった。

当時は多くの子供がそうであったように、小学校を卒業して募集人の世話により十三歳で諏訪の製糸工場へ働きに出た。始めは家を離れた寂しさがあったが、県内から集まった同年代の多くの仲間と一緒に暮らすことで、直ぐに気が紛れ仕事に打ち込むことが出来た。会社の待遇に恵まれ、夜間は高等学校へ通わせてもらえた。仕事は細かく一ミリの誤差も許されないほどで、苦しく辛い中でも楽しく過ごせた。給料は会社が管理し、必要な時に申請するという方式のため、無闇に使うことはなく自然に親への仕送りの原資となり、自動

へ働きに出た。始めは家を離れた寂しさがあったが、県内から集まった同年代の多くの仲間と一緒に暮らすことで、直ぐに気が紛れ仕事に打ち込むことが出来た。会社の待遇に恵まれ、夜間は高等学校へ通わせてもらえた。仕事は細かく一ミリの誤差も許されないほどで、苦しく辛い中でも楽しく過ごせた。給料は会社が管理し、必要な時に申請するという方式のため、無闇に使うことはなく自然に親への仕送りの原資となり、自動

夫と共に外で農作業、帰宅すれば子守りと、安らぐ時間はなかった。

今でも視力、聴力とも問題なく新聞はメガネ無しで読める。食べ物に好き嫌いは無く血圧の薬を飲んでいただけ、今まで入院は盲腸だけが、それが無意識のうちに無理に繋がり、帯状疱疹を患ったこともあった。

五十一歳でバイクの運転免許を取り、仕事に又ちよつとした外出にと有効活用していたが、最近免許を返納し、免許無しでも乗れる乗り物に替えて重宝している。

娘さんの結婚式直前に家が火事になり結婚家財を失ってしまったこと、五十五年間連れ添い誠実そのものであった勝夫さんが十年前に亡くなったこと、更に娘さんが六十歳で亡くなるという悲運に見舞われ一時は失意に沈んでいたが、子供時代に培った不屈の精神、後ろを顧みない前向きな性格で歯を食い縛り、短歌、俳句作りなどして乗り切った。

### 第二分館 田村夏祭り

図書部長 中原 淳

台風十二号の接近により、当初予定から一日順延となりましたが、毎年恒例の田村夏祭りが役場駐車場で会場に、七月二十九日に開催されました。



表、カラオケ、じゃんけん大会、とよおかウインドラムサンブルの演奏が披露され、祭りを一層盛り上げていただきました。

ステージ終了後は、宝投げ、花火と続き、大盛況のうちに閉祭となりました。ご来場いただいた皆様、ありがとうございました。

### 伴野区の夏祭り 第三十回だもんで!

古瀬 藤本 潤



一押しのプロ歌手、深谷次郎さんに歌ってもらった。⑤ 櫓を囲んで伴野小唄を盆踊りのように踊る。⑥ フィナーレはナイアガラ花火で締め上げる。以上六点を目玉として開催しました。深谷次郎さんは雨天順延により日程が合わず中止となってしまったので来年来て頂けるのを楽しみにしています。

当日は災害級の猛暑の為か、例年より子供達が少

# 祭行われる

い匂いが立ち込め、生ビール、焼き鳥、イカ焼き、五平餅など出店は大盛況でした。また、かき氷や綿菓子、金魚すくいや釣りヨーヨーなどの出店では多くの子供さんたちで賑わっていました。

特設ステージでは、多くのお客さんを中心に、豊丘太鼓の演奏、クラブ発



今年の夏祭りは雨天延期で二十九日の開催となりました。社会部長として関わり、三十回目の節目ということで、①三十回だもんでTシャツを作成し実行委員の一致団結を図る。②ドローンを飛ばして伴野区を空から見てみる。③櫓を建てステージとして使う。④関東豊丘会長の市瀬与彦さん



## 公民館登録グループ活動紹介 第12回

# ダンススポーツトヨオカ

代表 山田昌明

私達のダンスクラブは昭和五十八年に中高年ダンスクラブとして生まれました。初代・山本会長を中心にみんなが楽しくやっています。会長の身体都合によりわた

くし山田が引継ぎ現在までやってきました。

社交ダンスは頭を使うのでボケ防止になり身体を動かすので健康になります。

毎月ゆめあるで第二木曜日と第四木曜日にもレッスンをしています。第二土曜日には大ホールをお借りして他町村の人達にも声をかけてパーティーを開いています。おかげ様で二百十一回目のパーティーを七月十四日夜開く事が出来ました。有難うございました。

第二木曜日と第四木曜日にはレッスンをしたり踊ったり雑談をしたりと楽しくやっています。当クラブで

和五十八年に中高年ダンスクラブとして生まれました。初代・山本会長を中心にみんなが楽しくやっています。会長の身体都合によりわた



は年中いつでも入会者を入れていきます。ダンスを踊ってみたい人はわたくし山田の方まで電話いただきたいと思っています。会費は無料です。電話番号 三五二二六三三

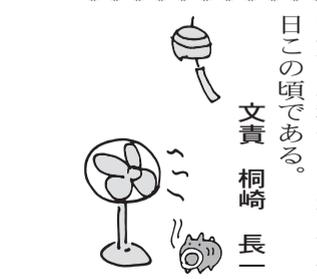
夫と共に外で農作業、帰宅すれば子守りと、安らぐ時間はなかった。

今でも視力、聴力とも問題なく新聞はメガネ無しで読める。食べ物に好き嫌いは無く血圧の薬を飲んでいただけ、今まで入院は盲腸だけが、それが無意識のうちに無理に繋がり、帯状疱疹を患ったこともあった。

五十一歳でバイクの運転免許を取り、仕事に又ちよつとした外出にと有効活用していたが、最近免許を返納し、免許無しでも乗れる乗り物に替えて重宝している。

娘さんの結婚式直前に家が火事になり結婚家財を失ってしまったこと、五十五年間連れ添い誠実そのものであった勝夫さんが十年前に亡くなったこと、更に娘さんが六十歳で亡くなるという悲運に見舞われ一時は失意に沈んでいたが、子供時代に培った不屈の精神、後ろを顧みない前向きな性格で歯を食い縛り、短歌、俳句作りなどして乗り切った。

名古屋で暮らす娘の元を時々訪ねて心身を癒やしている。長年行っていたリಂಗゴオーナーを五年前に辞め、家周りの野菜作りが中心の生活である。歌を口ずさみ、短歌・俳句を創作しつつ、お世話になった多くの人々に感謝しながら、息子家族と心穏やかに過ごす今日この頃である。



文責 桐崎 長一



# 分館スポーツ大会

## 第二分館遊休日 スポーツ大会

第二分館体育部長  
片桐英樹

第二分館では七月十五日に遊休日スポーツ大会を開催し、ソフトボール、ソフトバレー、マレットゴルフの三種目の競技にて、自治会対抗ではありますが、他地区の方々と交流を深める活動を行いました。開会式の選手宣誓では「勝ち負けより午後の慰労会に向けて正々堂々と」との実に熱



く高い目標をもった誓いで、参加者全員が競技に臨みましたが、今年は非常に暑い夏でもあり、熱中症予防として一部対策方法を変更しながらも、和気あいあいとプレーを楽しみました。西日本では前週の大雨による大災害がありました。当地区では人命に係わる災害まで至らず、その中被害に見舞われた方々の分まで熱くまた来年も変わらず楽しむことができよう互いに誓いあい、事故無く終える事ができました。

## 第五分館 スポーツ大会

第五分館体育部長  
三澤 学

例年より早い梅雨明けの今年は、猛暑と言うよりも酷暑になった七月十五日（日）にスポーツ大会が開かれました。前回のスポーツ大会までは、ソフトバレー（女

## 皆楽しんだマレットゴルフ大会

第六分館長  
小池光好

七月十五日（日）に赤松林運動公園グラウンドで佐原地区農休日マレットゴルフ大会が開かれました。当日は、朝から三十分近く立っているだけで汗がにじみ出る猛暑の中、子どもから年配の方まで大勢の人が参加されました。九時に開会、まずは、ビンゴゲームで心身と脳をほぐしました。なかなかビンゴにならない人もおりましたが、全員景品を手に入れました。続いて、各自治会混合四人一組でマレットゴルフがスタート。うだるような炎天下、時々テント内で水分を補給しながら、全九ホールで競技に興じました。集計の間にホールインワン大会が行われ、みごと一人ホールインワンが出ました。こうして、老若男女和気あいあいのうちに楽しく大会は終了



となりました。終了後、各自治会で慰労会兼暑氣払いが行われました。五臓六腑にしみわたり、リフレッシュするとともに絆を確認し、深めることができました一日ではなかったかと思えます。

## 俳句 短歌

夏めきて水脈ゆるやかに下り舟  
古戦場に風の嘶く青葉閣  
風露草古民家を継ぐ若きシエフ  
天竜川大河と化すや戻り梅雨  
道ぞえに栗の花咲き雨にぬれ  
満開の木槿に雲の流れ追う  
夏めける湖上遙かに白い領  
しこしこと青の香ばしる朴葉巻  
手拭を頼る農婦の汗の量  
谷川の一音となり河鹿鳴く  
ハケ岳の青鬱迫る夏暁  
誕生日雨に色増す濃紫陽花  
濁流へ孤高に舞ふヤヤ堂  
ほろほろと瀧音まざれず夕河鹿

磯部セツ子  
田中 静  
片桐 洋子  
森田 恵子  
三島 保子  
下平 玲子  
三島 里子  
木下 眞水  
松岡 照子  
宮下 公  
宮下 純子  
丸山 時子  
林 恵美子  
北原 昭子

## カマクラ片手に村内ラブラブ。消え行く姿を悼む

## 第16記 高貴な香りと涼しさを呼ぶ百合



ヤマユリ

中でも一番大きな『ヤマユリ』は直径二十センチ以上にもなる見事な花で、花が大きなため地面にまで頭を垂れてしまう。日本古来の原種として海を渡り、ウィーン万博で紹介され、大正ころまで重要な輸出品の一つとされた。百合の母株としても品種改良されて多くの西洋の百合を生み出してきた。



オニユリ

暑い日中でも風に揺られ香り豊かな夏の花、百合は夏には欠かす事のできない夏の風物でもある。写真と文／宮下正弘

## ～シリーズ～ 豊丘の自然

No.177

ウスバキトンボ  
(トンボ科)



稚内・礼文・利尻のツアーに参加した。旅の準備は家内まかせ。私は採集可能なトンボのリストを作っただけ。もちろん、捕虫網は持参した。採集できたのは六種だけ。その中のウスバキトンボを紹介する。

本種は渡りをするトンボとして有名。しかし、なぜ北への渡りをするのだろうか。

日本最北端の宗谷岬

四季折々に美しい姿を見せてくれる野の花たち。それでも今までの猛暑の中、咲く頃合いを忘れないで昨年と同じ場所に班を咲かせる夏の花たち。中でも香りとともに大輪の姿も見事な百合がある。

今年はいつよりも花を付ける時期が早かったことで、さらにこの暑さで心配していたが華やかに咲き揃ってくれた。大きさは百合



テッポウユリ

## 〈豊丘川柳クラブ豊柳会〉

- ▼課題「夫」 久保ひろし 選
    - 大丈夫時が薬だじっと待て 林 桃子
    - 大丈夫やる気で鉄動いてる 安田 喜子
    - 幸せは人夫々の胸のうち 福沢 勝美
  - ▼課題「代」 互 選
    - 代表の責は避けたい人ばかり 久保ひろし
    - 代掻きもせずに水張る田は悲し 山本 義彦
    - 代々の霊眠る里徳ぶ盆 原 美風
    - 敗れても代表チーム歓呼され 桃沢 健介
  - ▼自由吟 福沢勝美 選
    - 減塩に親しめた母の味 小澤 凜
    - 猛暑たえ節くれ指は五七五 市沢 照子
    - 祖父は過去孫は明日の夢見てる 西元 峯子
- 軸吟：歌丸が行けば閻魔も笑味こぼれ

〈短歌会 夢あるて〉  
勝ち力士マイクに向かひ問われれば喜びを秘め「頑張ります」と  
松尾ヒサコ

市田柿の徒長枝欠きて消毒す豊作ねがい小さき実おとす  
松下 泰見

いく度と電話かけれど届かざり熱は下りたか難聴の夫  
福澤貴美恵

あかり無き園原の空に天の川七夕まつりの伝説偲ぶ  
大原真由美

胡蝶蘭一輪咲きて盆近し母の化身か逝きてふたとせ  
筒井 恵子

〈あしたば短歌会〉  
天竜川の土手いづばいの黄の花は外来植物おとぎり草とう  
壬生 千春

新宿のビル街に立ち愛い見る何時か来るとう直下型地震  
大倉 知江

立葵上まで咲けば梅雨明けと雨なき空を今日も見上げる  
北澤 秀子

歌詠むはおのれの望みと身にしみて卒寿を迎え得たる結論  
毛涯百合子

五千年経て目覚めたる縄文のビーナスの唇何を語るや  
福澤 亀人